

2022 年度

国 語

最初に、以下の^{ちゅうい じこう}注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は^{かんとくしや}監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 左へマがる。
- ② 種子がハツガする。
- ③ 必要なエイヨウをとる。
- ④ 家をカイチクする。
- ⑤ ユウビン局へ行く。
- ⑥ オリンピックのセイカがとる。

問二 次の熟語と同じ成り立ちのものを一つ選び、記号で答えなさい。

〔往復〕

- ア、授受 イ、月光 ウ、屋外 エ、生産

問三 次の四つの漢字は、ある共通する部首をつけると別の漢字を作ることができる。その部首名をひらがなで答えなさい。

車・予・丁・付

問四 次の四字熟語と似た意味のことわざ、または慣用句を一つ選び、記号で答えなさい。

〔一刻千金〕

- ア、枯れ木も山のにぎわい イ、光陰矢のごとし
- ウ、ひょうたんから駒 エ、渡りに船

問五 次の（ ）に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

青菜に（ ）

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それから数日たって、先生のダイエットは持ちなおしたが、かんじん肝心の部員たちの調子は好転しなかった。相変わらず好調をキープしている山下以外、みな皆じりじりとタイムを落としてきていた。

「みんなどうしたんでしょね」

見兼ねた咲良は、なお直や先生にも相談してみたが、

「ま、こういうこともある」

「周りが焦つても逆効果だから」

と、二人ともさほど気にしている様子もなく、咲良はいつそうじりじりしてしまう。なにか原因があるはずだ。自分だって、調子が悪いときにはそれなりの原因が必ずあった。

① 咲良は、ハーフパンツのポケットのあたりをギユツと握にぎった。硬かたい四角いものが指ゆびに触れる。昨日、自分が拾ったものだった。やっぱりこれも原因だ。

硬い手触ざわりを確かめながら、ウォーミングアップをする部員を眺ながめていた咲良だが、小さく首をかしげた。

あれ？

ちよつとした異変に気がついたのだ。

「ひがしだいらいせんばい東平先輩、ちよつと待ってくださーい」

とっさに駆け出す。体の軸じくを作るためのストレッチをしていた東平がなにごとかと動きを止めたので、咲良はきちんと声が届くところまで駆け寄った。

「ケンケンドリルの次はケンケンスイングです」

「はあ？」

「だから、順番が逆なんです。ドリルの次はスイング」

ドリルで軸を使って弾めるようになったら、次は軸と反対の脚で弾むと、本に書いてあったのだ。何度も読んだので、きちんと頭に入っていた。が、

「順番なんかどうでもいいだろ」

「だめです。意味があるんです」

東平の受け答えがもう少し柔らかかったなら冷静にもなれたかもしれないが、むきになられたので、つい咲良もかちんと来た。「ちゃんとやってください」

「やってるよ。自分なりにアレンジしてるの。その時々調子は自分にしかわかんないんだっつーの」

「もー、やめなよー」

もめていると天野が割って入ってきた。

「いいじゃん、咲良ちゃん。ちょっと順番が違うくらいさあ。些細なことじゃーん」

わざとらしいチャラつぽさも腹が立ったが、それよりもその適当な言い方がききずてならなかった。自分は、何冊もの本を読み込んで、ベストと思えるアップ方法を紹介したのだ。些細なことで片付けられたくない。

それに天野には言っておかなきゃいけないことがある。

「天野先輩はもつとキャプテンらしくしてください」

「えー、とぼつちりだよ」

火の粉を払うように手を振る天野を、咲良はぐつと見据えた。

「これって、先輩のですよね」

ポケットから硬い物を引っ張り出した。天野の顔の前にかざす。

それは天野の感覚ノートだった。拾ったノートには天野走介と名前が書いてあった。

「あ、あつとつと」

「しかもなにも書いてないですよね」

咲良はばらばらとめくって見せた。金曜日、グラウンドを引き上げる際、たまたま咲良が見つけたものだ。

天野は一瞬こそぎよつとしたような顔をしたが、すぐにチャラけた顔になった。

「わりい、わりい。まとめて書こうと思ってたんだよ。そんなに怒っちゃって、せつかくのかわいい顔が台無しだよーん」

「うるさいんだよっ」

突然怒鳴られて咲良は目を見開いた。それが自分の言いたかった言葉だったからではない。自分に投げられた言葉だったからだ。投げたのは、堂本だった。

「うるさ、い？」

「ああ」

確かめてしまう咲良に堂本はうなずいた。

「俺らには俺らのやり方があるんだよ」

堂本は多少声のトーンを落とした。すると、大黒もそれに賛同した。

「そうだな。湯田さんが一生懸命なのはわかるけど、強制されるのは気分がよくないな」

「強制してるんじゃないやありません。アドバイスです。助言です」

「いや、湯田のは押しつけだね。やってらんねー。はーっ」

声を震わす咲良に、東平は大げさなため息をつき、

「そうだな。的を射たアドバイスなら結果が答えていると思いますよ。少なくとも現状では助言とは言いにくい。どちらかといえど支配でしょ」

大黒は眼鏡の真ん中を押し上げて、へー I ーと語った。慇懃無礼と言った方がいいかもしれない。咲良は援護を得るべくクラスメートを見た。

「山下は？ 山下ならわかるよね。だって結果出してるもん」

「……」

が、山下は無言で目を伏せた。

裏切り者。

「まあ、まあ、まあ」

へ Ⅱ へ になった咲良のところに、大熊先生がやってきた。直も一緒だ。

「男が五人がかりで攻め立てるなよ」

「いや、まさか女の子にそんなことはしませんよ」

助けもしてくれなかったのに、天野は両手をちらつと振った。

「攻めているわけではないですよ。③こちらのスタンスを説明しているだけです」

「そうです。押しつけられるわ、怒られるわじゃやってらんねー」

慇懃な大黒と叫び散らす東平に続いて、堂本も言った。

「俺らにはこれまでのやり方があるんだよ。ぼつとやってきてかきまわされても困る」

④「かきまわすって」

咲良は唇をとがらせた。自分だってよかれと思ってやっているのだ。一生懸命にやっているのだ。それにこれまでのやり方と違うのもひっかかる。

どうせ由真さんとは違うよ。

完璧なノートとともに、由真のたおやかな姿が思い出され、それがとげとげと内側から胸を突いた。

「まあ、湯田も一生懸命やっとなるんじや」

黙ってしまった咲良に代わって、先生は

3

「でもなあ、湯田。結局は自分なんじやわ。自分で気がついて自分で動くやつしか強うならん。マネージャーができることは、強くなりたいやつが、思う存分力を伸ばしていけるように、サポートすることじゃあ。⑤求められんことまでせんでええんじやな

いか」

論ますような言い方だったが、咲良は首を左右に振った。まったく理解できなかった。

「……いやです」

声を絞しぼり出す。

「はあ？」

「いやって、なんだよ」

「まじか」

男子五人の部員が一気にざわめいたが、咲良はきつと顔を上げた。^⑥部員一同を、ひとり一人にらみつける。

「じゃあ、なんのためにマネージャーがいるんですか？ 下働きするためですか？ タイム計ったり、スケジュールを知らせた

り、飲み物冷やしたりするだけですか」

訴うったえているうちに、情けなさがこみ上げてきた。

「タイムまちがってますよね」

そこに「 X 」の嫌味いやみなひと言がきこえて、涙なみだが出そうになるのを咲良はぐつとこらえた。

「私わだって、頑張がんばってるんです」

歯を食いしばる。

「お？」

咲良の迫力はくりよくに 4 のか、周りから声こゑがもれた。

「青春せいしゅんをかけてるんです」

さらに声を張ると、

「お」

ざわめきがおこった。部員たちはちょっと感心かんしんしたようだった。咲良はさらに語氣ごきを強める。

「そりゃあ最初は邪な気持ちだったけど、今はそんなのいっさいないっ」

言葉を向けた堂本は無反応だったが、かまわず続ける。

「みんなが勝ちたいみたいに私だって勝ちたいです。だったら頑張るのは当然じゃないですか。私は走らないけど、走っている人と同じくらいエネルギーを注がないと失礼じゃないですかっ」

「まあ、まあ、そう熱くならないで。かわいい顔が台無しだよ、咲良ちゃん」

「やり方なんだよ」

茶化すような「 Y 」と、高圧的な「 X 」の声は無視をして咲良は続けた。

「初めて試合をまちかで見たととき、体の中がどんでん返ったみたいだったんです。みんなが走る姿に全身が震えたんです。これに青春をかけるって決めたんです。突っ走るしかありませんっ」

最後のフレーズは、ほぼ絶叫だった。

(まはら三桃『疾風の女子マネー!』〈小学館〉より)

問一

1

4

ものは使えない。

ア、気圧けおされた

イ、まくしたてた

ウ、とりなした

エ、鼻息あを荒らげた

オ、一目置いた

問二 (Ⅰ) (Ⅱ) に入る四字熟語として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、異口同音

イ、孤立無援こりつむえん

ウ、言語道断

エ、五里霧中むちゅう

オ、理路整然

問三 〰〰線部「わざとらしいキャラっぽさも腹が立った」とあるが、「わざとらしいキャラっぽさ」とはどういう態度か。次の()に入る三字のことは本文からぬき出しなさい。

真剣しんけんに話しているのに、「咲良ちゃん」「些細なことじゃーん」などと、それを()態度。

問四 — 線部①「やっぱりこれも原因だ」とあるが、「これ」とは何か、二十字以内で答えなさい。

問五 — 線部②「山下は無言で目を伏せた」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、同じクラスの咲良にはかかわりたくないから。
- 2、練習を押しつける咲良には同調できないから。
- 3、咲良と先輩のどちらにもつくことができないから。
- 4、追いつめられた咲良を助ける妙案みょうあんが浮かばなかったから。

問六 — 線部③「こちらのスタンス」とあるが、その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、突然とつぜんかきまわすような助言は困るし、思っても口にしないでよしとする態度。
- 2、アドバイスをするのは大事なことで、強制もしないことをよしとする態度。
- 3、ウォーミングアップの順番は些細なことで、これまで通りのやり方でよしとする態度。
- 4、何を主張してもいいけれど、納得いかなければ反論するのもよしとする態度。

問七 — 線部④「咲良は唇をとがらせた」とあるが、このときの咲良のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号

で答えなさい。

- 1、先輩たちのやり方に納得がいかないで、文句を言いたいのをがまんしている。
- 2、自分はよいと思つてやっていることを先輩に否定され不満を抱いている。
- 3、向上心のない先輩たちにはもう何を言つても無駄だとあきらめ始めている。
- 4、自分を仲間として認めようとしなない先輩たちに対して怒りを覚えている。

問八

— 線部⑤「求められんこと」とあるが、それは何か。適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、練習表の配布
- 2、タイム計測
- 3、飲み物の手配
- 4、練習のアドバイス

問九

— 線部⑥「咲良はきつと顔を上げた」とあるが、このときの咲良のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、毅然とした様子こそが最大の効果を発揮すると考えた。
- 2、数の論理に負けずに対抗すべく、正論で反論しようとしている。
- 3、怒りで自分の表情が鬼のような形相であることにも気づいていない。
- 4、反論に返された情けない低レベルなことばのせいで感情に火がついた。

問十

「X」、「Y」に入る人物の名字を文中からぬき出しなさい。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

外見から他者を理解するということ

外見とはどのようなことを意味するのでしょうか。字義通り考えれば、「外」^①から見える人の姿ということでしょうか。「外見を気にする」とは、まさに見た目で《Ⅰ》《Ⅱ》される自分の姿、自分への評価に敏感になるということです。誰がどのように考えようと自分は自分だとも言えますが、そう簡単なことでもなく、私たちは常に「他者からの視線」に対抗する術^{すべ}を考え、実践^{じっせん}しているのです。そして私たちが日常の差別や排除^{はらいじよ}を考^{かん}えるとき、外見という問題もまた重要な手がかりです。本章では、外見をめぐる、語ってみたいと思います。

注2 ゼミの男子学生が髭^{ひげ}をテーマに卒業論文を書きました。内容は日本や西洋における髭の社会史をまとめたものですが、彼にとって卒論は自分の髭への鎮魂歌^{注3}でした。彼は、ゼミにはよく手入れされた黒々とした髭^{たぐわ}を蓄^{たくわ}えて現れました。ゼミだけでなく大学の日常も髭を蓄^{たくわ}えた姿は特に違和感^{わいご}もなく、何の《Ⅱ》もなく彼は過ごしていました。

注4 ②、大学を卒業し社会人になるタイミングで、彼は見事な髭に別れを告げなければならなかったのです。企業の就職面接で彼は卒業論文のことを聞かれ、髭に対する問題関心を語り、髭が持っていた社会的意義なども語ったのだと思います。彼は内定^{注4}をとり、採用されました。彼の人物を評価し、大学での社会学の学びや卒業論文の内容などが良かったからこそ、採用されたのだと、私は思います。ただ、彼曰^{注5}く、最後に面接を担当していた人から「うちの会社に来ることになったら、髭はきれいに剃^そってくださいね」と

と【 A 】そうです。

髭をたくわえているからといって、それだけでその人物の人間性や能力などはわからないでしょう。髭のあるなしで、その人物を理解しきることなどできないはずですが、

2

なぜ彼は髭をきれいに剃^そってくださいと注意されたのでしょうか。

うちの会社に勤めるとすれば、それはふさわしくない。企業を構成する一員になるのだから、企業イメージに抵触^{ていしよく}しないように外見も整えるべきだ。お客様に不快な印象をあたえてしまう危険性がある。うちの会社は食品を扱^{あつか}っているのだから、常に清

潔感が社員には必須だなど、さまざまな「理由」が考えられるでしょう。ただ「理由」のいずれをとっても、髭をはやしていることが、人間としてダメな証拠であり、欠陥がある証拠だといった私たちの「内実」に言及するものにはなっていません。

髭を例にとつて、少しお話ししましたが、こうした「理由」が意味を持つ背景には、私たちが日常さまざまな場面で他者とやりとりする場合、外見を重要な手がかりとして、他者を判断しているという事実があるからです。日常生活世界を解説した社会学者A・シユッツによれば、私たちは普段「類型」^③に準拠して他者を理解し、「類型」は私たちがそれまで蓄積してきた「知識在庫」に依存しています。たとえば先の男子学生が卒業して社会に出ると「サラリーマン」となります。「サラリーマン」という「類型」は、アイロンが効いたしわのないワイシャツに興味のいいネクタイを締め、落ち着いた色のスーツを着て、にこやかにお客様に対応するといった実際の場面に即応した常識的知から構成され、そのほとんどが外見、見た目に関連したものとと言えます。より外見に徹底した「類型」といえば、「就活する大学生」を思い出します。個々の学生がどのような人間性を持ち、どのような思想をもっているのかなど、「内実」に一切関わりなく、就活スーツに身を固め、清潔な髪形に整えた瞬間、彼らは「就活する大学生」に変身してしまいます。

④、という考えを否定する人はまずいでしょう。そうでありながら同時に私たちは普段、いちいち目の前にいる他者の「なにかみ」や「ところ」を気にして、生きていくわけではありません。他者の「内実」ではなく、他者の「外見」をもとにして、その場その時に応じて、目の前の相手が何者であり、どのように対応すれば適切であるかを瞬時のうちに判断し、実践しているのです。だからこそ、外見を考えることは、日常における他者との出会いや他者理解を考えるうえで、とても重要な営みだと言えるでしょう。「たかが外見、されど外見」なのです。

日常の儀礼…一人一人の「膜」

「されど外見」を考えると、私たちは普段、他者とどのように向きあっているのかをじっくりと見つめる必要があります。

3

これは、ゴフマンという一風変わった社会学者が生涯テーマとした「共在Ⅱ他者とともに在ること」を考え、そのありようを解説する営みと密接に関連しています。ゴフマンは、人間が他者と共に在る営みや複数の人間からできる集まりには、

それ自体固有の秩序ちつじよがつくられ維持いじされているという事実を明らかにしています。「相互行為秩序 (the interaction order)」というものです。

たとえば、私たちは電車に乗っている時に、どのような秩序を維持しながら過ごしているのでしょうか。私がまず思いつくのは「他者はじっとみつめない」というルールです。どんなに目の前の座席すわに座っている人が魅力的みりよくであろうと私はその人をじっと見つめたりはしません。でもやはり気になる時は、その人だけを注視するのではなく、他の光景も眺めてながいるふりをしながら、それとなく見るでしょう。ゴフマンの言葉を借りれば、それは「焦点しやうてんをあわせない (unfocused)」見方であり、こうした秩序が維持されているのは「焦点をあわせない人々の集まり」であり、電車のような公共的な空間で典型的にみられる現象です。

4 私に限らず乗り合わせた多くの人は、電車の中では、特定の誰かに焦点をあわせないで、焦点をぼかしながら、周囲の乗客の姿や様子を見るときもなく見ているのです。

さらに言えば私たちは、他の乗客との距離きよりを絶妙ぜつみょうに保ちながら、自分の場所を維持しつつスマホに熱中したり音楽を聴いたり本を読んだりしています。ゴフマンに言わせれば、新聞や週刊誌や本は、他者との距離きよりをとり、距離きよりを保っていること、言い換えれば自分是他者に対して関心はないし、他者という存在かんごへ関与するつもりもないことを周囲の他者に表示するための「道具」なのです。もちろん今はスマホこそ最適な「道具」です。

ただこうした視線の取り方や「道具」が通常に機能して電車内の秩序が維持されるとしても、それが危あやうくなる状況じやうきやうはいくらでも起こり得ます。

満員電車に乗って、私はいつも気になり、どうしようか困ってしまうことがあります。それは隣となりに立っている人や席に座っている人が熱中するスマホの画面が「見えてしまう」ことです。見たくなければ目を閉じればいいだけですが、満員で身動きも【 B 】とき、目を閉じ続けると不安定な状態になるし、さりとて他に視線を移そうとすれば、そこでも別のスマホの画面が見えてしまいます。見たくもないものが、まさに「見えてしまう」のです。

でもなぜ私は困ってしまうのでしょうか。先に述べたようにスマホは使用している人にとって、満員電車という人間が充満じゅうまんした異様な空間で、自分の世界に閉じこもることができる有効な道具です。それは同時に他者に対して関心もないし関与もしない

注1・字義……漢字のもつ意味。文字の表している意味。

注2・ゼミ……ゼミナールの略。大学で、少人数の学生が教師の指導のもとで特定のテーマを研究し、それについての発

表・討論を行う形式の授業。

注3・鎮魂歌……死者の魂をなぐさめしめしめるための歌。

注4・内定……正式の決定の前に内々に決まること。

注5・曰く……言うことには。

注6・準拠……あるものを規準として、それに従うこと。

注7・就活……就職活動の略。

注8・堅牢……堅くてじょうぶなこと。

問一

1 4 に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

- ア、では イ、しかし ウ、だから エ、つまり オ、そして

問二 「A」、「B」に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A

ア、釘くわくを刺さされた

イ、つじつまを合わせた

ウ、出る杭くわは打たれた

エ、色めがねで見られた

B

ア、ほかならない

イ、ばかにならない

ウ、気にならない

エ、ままならない

問三 《Ⅰ》《Ⅱ》《Ⅲ》に入る二字のことばを次の漢字を組み合わせそれぞれ作りなさい。

連 判 柱 続 使 障 動 行 断 支

問四 — 線部①「外」とは具体的には何か。文中からぬき出して答えなさい。

問五 — 線部②「彼は見事な髭に別れを告げなければならなかった」とあるが、それはなぜか。その理由を十五字以内で答えなさい。

問六 — 線部③「類型」にあてはまるものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、コンビニには何でも売っている。
- 2、赤信号の時は横断しないで止まる。
- 3、七月八月は暑く、一月二月は寒い。
- 4、お店でものを買ったからお金を払う。

問七 ④、⑦ に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- ④
 - 1、類型で人を判断してしまうのは人間としての習性だ
 - 2、他者理解にとって中身も大事だが見た目も重要だ
 - 3、人間は外見や見かけではなく、その中身が大事だ
 - 4、就活スーツは「就活する学生」の必須アイテムだ
- ⑦
 - 1、他者の皮膚感覚を共有すること
 - 2、他者の私的世界を侵犯しないこと
 - 3、他者の心の奥を理解すること
 - 4、他者のテリトリーに干渉すること

問八 — 線部⑤「固有の秩序」とあるが、たとえばそれはどういうことか。適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えな

さい。

- 1、イヤホンで音楽を聴いたりゲームやLINEに集中したりして、他者に気づかないこと。
- 2、気になる相手は見つめるのではなく関心のない様子で凝視ぎやうしすること。
- 3、見たくない相手に対しては目を閉じるのではなく目をそらすこと。
- 4、相互そうごに相手に対し関心を持たないようにし、持っていないふりをする事。

問九 — 線部⑥「スマホこそ最適な『道具』です」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選

び、番号で答えなさい。

- 1、他者に対して関心もないし関与もしないことを示すことができるから。
- 2、音楽を聴き、画面に目を落としてゲームやLINEに集中することができるから。
- 3、他者との関わりを遮断し、一人の世界に入り込むこことができるから。
- 4、現代人にとって必要不可欠なスマホがあれば何でもすることができから。

問十 本文の内容と合っているものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1、外見による差別をなくすために考えなければいけないことが多くある。
- 2、髭をはやしている人は不潔な印象をあたえ、仕事の上でもマイナスになる可能性がある。
- 3、電車内のような公共の場では、スマホに熱中せず他者とは関わらないようにするのがよい。
- 4、自分を守る「膜」は、レンガの壁のようにもしやぼん玉のようにもなり得る。
- 5、注意していても、他人の「膜」を破ってしまうような危険性はある。
- 6、外見を意識してよくしていくことで周りの人々と良好な人間関係をきずくことができる。

受験番号
氏名

得点

問二	問一					
	⑤	①				
問三	⑥	②				
問四	③					
問五	④					
画						
<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>						

問九	問五	問四	問二	問一				
			I	1				
問十	問六		II	2				
X			問三					
Y	問七			3				
				4				
	問八							
<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>								

問九	問六	問五	問四	問三	問二	問一				
				I	A	1				
問十	問七			II	B	2				
	④			III		3				
	⑦					4				
	問八									
<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>										